

公益社団法人可児市シルバー人材センター
令和5年度事業報告

デフレ脱却が進むなか、令和6年2月に日経平均株価が最高値を更新し、3月には史上初めて4万円の大台を突破しましたが、株価上昇による恩恵は海外投資家など限定的であり私たちの暮らしには好景気の実感はありません。しかし、政府は令和5年度におこなわれた過去最大の賃上げや設備投資、株価など明るい兆しが随所に出てきており、この流れを加速させて所得増と成長の好循環を実現することが重要と考えています。

こうした状況のもと、シルバー人材センターは令和5年度の計画である「エイジレスに働く環境整備」と「女性会員の増強」を重点的に進めました。また、外部環境の変化に対応するためセンター業務のデジタル化を進めました。本年度は、10月よりインボイス制度が開始され、会員への周知、事務体制を整えたことにより堅実に対応することができました。こうした活動の結果として各事業の実績を以下の通り報告します。

令和5年度の事業実績は以下の通りとなりました。

| | | 前年比 |
|-------|---------------|----------|
| 受託件数 | 3,744 件 | (99.9%) |
| 契約金額 | 287,180,878 円 | (104.9%) |
| 就業延人員 | 60,092 人日 | (104.3%) |
| 会員数 | 824 人 | (99.2%) |

I 事業体制

1. 企業の人手不足状況に高齢者の労働力を提供することができました。
2. インボイス制度が導入されましたが、事業運営に支障を来さぬよう対応しました。
3. 女性の意見を事業に反映できるよう、女性委員会の活動を活発化しました。
4. 企業向けの業務拡大による、派遣事業の充実を図りました。

II 事業実施計画

1. 地域密着型事業

地域社会の日常生活に密着した臨時的かつ短期的又はその他の軽易な仕事を組織的に把握して提供する高齢者の自主的団体として地域に密着した活動を重視しました。

- (1) 地域班を中心にその地域で発生した就業の場で連携して、共に働き、共に助け合って活動することができました。
- (2) 高齢者の就業を促進することにより、高齢者自身の活動的な生活能力を生み出すとともに、その家族や地域社会に活力を生み出し、地域社会活性化につなげました。
- (3) 働く意欲と能力を持った高齢者であれば誰にでも参加の道を開き、自主的な組織参加と労働

能力を発揮することにより、豊かで積極的な高齢期の生活と社会参加による生きがいの充実を図りました。

2. 労働者派遣事業

本年度も企業他、あらゆる事業所で人手不足が顕著であるとのことでしたが、県知事に特例措置として、業務拡大の申請をし、その地域に必要とされる職種・業種に限って週40時間まで就業できる緩和措置が許可されました。企業側もローテーションではなく安定した人材を提供されることになり、長時間働きたい会員側にもメリットがあるようになりました。その特例措置に添った就業を新規で3件獲得することができました。また、派遣事業全体としても順調に実績を伸ばすことができ、契約金額は前年対比112.8%となりました。現在も様々な業種の事業所からの引き合いがありますので引き続きセンターホームページ等で募集状況を公開し、就業のマッチングを強化していきます。以下、結果となります。

●受注件数 : 39件 契約金額 : 74,864,914円 就業延人員 : 11,689人日

3. 介護保険事業

可児市の65歳以上の要支援・要介護認定者は約4800人で毎年100名増加している傾向にあります。センター介護保険事業所にも地域包括支援センターや居宅介護支援事業所から訪問介護サービスの依頼が多くあり、現在受注することができる最大の件数を受注しており、新規に受注することは難しくなっています。また、訪問介護会員も不足しており、会員に不測の事態が発生した場合、代わりに対応できる会員がおらず、資格を持ったセンター職員が対応することが散見されました。しかし、介護保険事業は地域に密着した社会貢献ができる事業でありセンター事業にとっても重要な位置づけとなります。今後も事業が継続していけるよう介護人材の確保が重要な課題です。以下、結果となります。

●訪問介護受注件数 : 20件 契約金額 : 2,518,907円 就業延人員 : 1,011人日

●総合事業受注件数 : 34件 契約金額 : 4,803,174円 就業延人員 : 1,646人日

●介護実費受注件数 : 8件 契約金額 : 66,830円 就業延人員 : 39人日

4. 福祉有償運送事業

福祉有償運送事業は地域社会に貢献するという目的で平成24年に開始しました。開始してから11年間、人身はもちろんのこと物損事故もなく継続することができました。今年度は事業の更新時期となり、令和5年12月に中濃地域福祉有償運送運営協議会において更新申請が協議され、令和6年2月に中部運輸局に登録され今後3年間事業を継続することができることとなりました。しかし、昨今の物価、特にガソリン価格の上昇は事業に与える影響が大きく、残念ではありますが令和6年4月より運賃を値上げすることとなりました。今後も利用者に対し丁寧な説明をおこない、利便性の向上を図るとともに、少しでも福祉の役に立てるよう事業を進めます。以下、結果となります。

●受注件数 : 766件 契約金額 : 721,455円 就業延人員 : 766人日

5. 新規事業

各委員会では、センター事業の更なる発展を目的として各種事業を進めました。

事業委員会で立案された、お墓の清掃サービス、親孝行代行、お助け隊(お困りごと解決)など地域に密着した業務を受注することができました。また、シルバークレジットショップを開始し、理事、地域班長が中心となり市内事業所約 160 件を訪問し協賛の依頼をしました。それにより 36 件の事業所が正式に協賛店として登録していただくこととなり、随時、会員へ周知をしました。

女性委員会では「カフェオアシス」を立ち上げました。準備、運営などすべて女性委員会が行い毎月月初に継続してカフェをオープンし多くの会員に楽しんで利用してもらうことができました。講習会、講演会は女性の目線から企画され、会員だけでなく一般にも参加者を募集することにより多くの女性が参加しました。

6. 指定管理事業

可児川苑・やすらぎ館、両館ともコロナ禍に比べ利用者数は増加しました。講座やサークル活動も通常どおりに行われ、かつての賑わいを取り戻しつつあります。また、本年度は老朽設備の大規模改修を行い、利用者の利便性の向上を図りました。

Ⅲ 各委員会での立案の実行

組織的な事業運営を果たすため、各担当部局により分業的な役割を機能させ課題に取り組みました。

- ① 総務委員会 理事会の議案立案やセンター全体の諸問題について協議しました。
- ② 事業委員会 センター事業の拡大発展について協議し事業を運営しました。
- ③ 安全委員会 発生事故を分析し事故防止対策に繋げ、安全啓発を行いました。
- ④ 広報委員会 会報「ささえあい」を発行し広く広報活動を行いました。
- ⑤ 女性委員会 女性の活動を活発化させるため事業の企画運営を行いました。

Ⅳ 安全就業

事故減少のため、安全就業マニュアルの遵守、安全パトロール実施等継続して実施しました。一人作業中に事故が発生した場合、発見が遅れてしまい命に係わることもあるためできる限り二人以上での就業をするよう啓発しました。また、身体機能の低下による転倒などを防ぐためにも、体力維持の運動を心掛けるように周知しました。

Ⅴ デジタル社会に向けた取り組み

会員がパソコン・スマートフォンで自身の配分金情報、就業情報、センターからのお知らせを閲覧できる会員クラウドサービスを開始し利便性の向上を図りました。そのサービスを会員の端末に導入してもらうため、各地域で説明会を開催し、各地域懇談会で事務局職員が導入の手伝いを行いました。また、パソコン・スマートフォンの講習を行い、会員がセンターのデジタル化に対応していただけるよう取り組みました。

Ⅵ ボランティア活動

コロナ禍で中止されていたボランティア活動、地域懇談会もほとんどの地域班で開催されました

が参加者はまだまだ少ない状況でした。シルバー人材センター理念、「伝えよう地域の文化と伝統、さしのべよう福祉の手と心」に基づき、今後も各種ボランティア活動を踏襲し実施していきます。

令和6年5月31日

公益社団法人可児市シルバー人材センター

以上で令和5年度事業報告とします。